

授業科目	＊応用栄養学Ⅱ					実務家教員担当科目	－
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	天本 理恵						
授業概要	応用栄養学Ⅰに続き、ライフステージ別の生理的特徴、栄養管理等について解説する。 乳児期、幼児期、学童期、思春期における心身の成長と発達にめざましく、この時期の栄養ケアは成長に重点をおいたものとなる。成人期は、身体的にも、社会的にも、最も充実した時期で、かつ加齢によって身体の形態的・機能的変化や精神・心理的变化など老化が進行する時期でもある。成人期の多忙な日常生活による不規則な生活習慣、運動不足、ストレスなどは、いわゆる「生活習慣病」をひきおこしている。また、高齢期における栄養ケアの必要性は、超高齢社会にある現代社会において重要視されている。本講義は乳児期から高齢期のライフステージにおける、身体的および精神的変化、環境の影響、ならびに、それに対する食事摂取基準の活用を含んだ栄養ケアマネジメント（栄養管理）について概説する。						
授業形態	対面授業			授業方法			
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	1. 乳児期の栄養ケア、幼児期・学童期・思春期における心身の発達、食生活の特性や疾患および各ライフステージ別の食事摂取基準を理解し、それぞれに適した栄養管理について説明できる（DP1-2、DP2-1、DP3-1、DP4-1、DP5-1）。 2. 乳幼児の栄養管理において、「授乳・離乳支援ガイド」を理解し、離乳の支援について説明できる（DP1-2、DP2-1、DP3-1、DP4-1）。 3. 成人の形態的・機能的な特徴ならびに、生活習慣病の概要およびそれらの栄養の改善による予防について説明できる（DP1-2、DP2-1、DP3-1、DP4-1）。 4. 成人期の食事摂取基準について説明できる（DP1-2、DP2-1）。 5. 更年期女性のホルモン動態、エストロゲン低下による身体への影響、栄養管理を説明できる（DP1-2、DP2-1、DP3-1、DP4-1）。 6. 高齢期における加齢および老化の理論、身体・精神的特徴、疾患、食事摂取基準、栄養管理等を説明できる（DP1-2、DP2-1、DP3-1、DP4-1）。						
理想的レベル	標準的レベルに加え、以下の項目を深めることができる。 1. 乳児期の栄養ケア、幼児期・学童期・思春期における心身の発達、食生活の特性や疾患を理解し、それぞれに適した栄養管理について説明できる。さらに各ライフステージの食事摂取基準を活用した栄養管理ができる。 2. 乳幼児の栄養管理において、「授乳・離乳支援ガイド」を理解し、対象者への離乳の支援に活用することができる。 3. 成人の形態的・機能的な特徴ならびに、生活習慣病の概要およびそれらの栄養の改善による予防について説明でき、さらには食事摂取基準を活用して適切な栄養管理計画ができる。 4. 更年期女性のホルモン動態、エストロゲン低下による身体への影響を説明でき、栄養管理につなげることができる。 5. 高齢期における加齢および老化の理論、身体・精神的特徴、疾患、食事摂取基準、栄養管理等を説明することができ、高齢者の特性に応じた栄養管理の設計ができる。						

第 11 回	成人期の栄養（４）更年期の栄養② 更年期の栄養ケア、マネジメントについて解説する。
第 12 回	高齢期の栄養（１） 高齢期の身体・精神的特性、加齢等について解説する。
第 13 回	高齢期の栄養（２） 高齢期の栄養アセスメントについて概説する。
第 14 回	高齢期の栄養（３） 高齢期の栄養マネジメント、食事摂取基準 2025 年版について解説する。
第 15 回	高齢期の栄養（４） 高齢期の栄養ケアマネジメント、疾患について解説する。
テキスト	・「イラスト 応用栄養学」第 4 版 東京教学社⇒改訂後の教科書を使用します。 ・「厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準 2025 年版」第一出版 K. K 必要に応じて参考資料とパワーポイントの資料を配布する。
参考図 書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	・「栄養ケア・マネジメント 基礎と概念」 木戸康博・小倉嘉夫・真鍋祐之編 医歯薬出版株式会社 ・「食事摂取基準 理論と活用」 鈴木 公・木戸康博編 医歯薬出版株式会社 ・授乳・離乳支援ガイド～厚生労働省 ・乳児用調整粉乳の安全な調乳、保存および取り扱いに関するガイドライン～ WHO/FAO ・国民健康・栄養調査結果～厚生労働省 ・学校保健統計調査結果～文部科学省
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	課題はないが、講義内容や予習復習内容を含む小テストを毎回の講義の最後に実施し、解説し、提出して頂きます。小テストは次の講義時に返却します、質問等にも回答し返却します。
学生への メッセー ジ・コメ ント	【理解に必要な予備知識や技能】ライフステージ別の栄養管理では、人体の構造と機能および疾病の成り立ちに該当する科目（特に解剖学・生理学、疾病診断治療学）の知識が必要になります。また、食事摂取基準 2025 年版を学ぶ上で、「栄養学概説」、「基礎栄養学」の知識が必要になります。1 年次に学んだ「栄養学概説」の復習をしておくようにして下さい。 【授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ】応用栄養学は栄養マネジメントへの理解を深め、さらに皆さんが歩んできたライフステージと、加齢とともにこれから歩いていくライフステージについて学び、それを生活習慣の改善や栄養指導に活かす教科です。日々の生活から多くのことを吸収して、この講義で学んだことと関連付け、栄養士・管理栄養士になるために必要な知識を身につけて欲しいと思います。授業以外の学習方法としては、まず教科書を読み予習してきてください。復習は、配布した講義スライドと教科書を見直すことを最低限行って下さい。なお、試験に関しては、講義の中で指示します。